



安全就業ニュース

公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会

目次

- 蜂だけではなく—マダニによる死亡事故発生
- 安全リレー (公社)宮崎県 SC 連合会
- 事故報告 (令和 8 年1月分)
- 全シ協 販売書籍のご案内／編集後記

事故速報

！ 蜂だけではなくありません。マダニによる死亡事故が発生しました。

1. 長袖、長ズボンで肌を露出しないようにしてください。
2. 草の上に直接座ったり、脱いだ上着やタオルを不用意に地面や草の上に置かないでください。
3. 虫よけスプレーを活用してください。

令和 7 年度には蜂に刺されアナフィラキシーショックでの死亡事故ばかりでなく、マダニに刺され、重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) による死亡事故も発生しました。ダニに刺されたことで起こる感染症はリケッチアやウイルスという病原体を保有するダニに刺されたことにより起こる感染症です。

Pick Up

山や草むらでの就業の際は、マダニにご注意ください

「マダニ」は春から秋にかけて活動が活発になりますが、冬でも活動しており、一年を通して注意が必要です。「マダニ」に刺されることによって引き起こされる、「重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)」「ヤリケッチアや細菌など病原体を保有する「マダニ」に刺されることで感染する「日本紅斑熱」「ライム病」「回帰熱」などが主な病気です。いずれも、すべてのマダニが病原体を持っているわけではありませんが、刺されないための注意が必要です。

重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)

ダニに刺されてから6日～2週間程度で、原因不明の発熱、消化器症状 (食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛) が見られます。時に頭痛、筋肉痛、神経症状 (意識障害、けいれん、昏睡)、リンパ節腫脹、呼吸器症状 (咳など)、出血症状 (紫斑、下血) など様々な症状を引き起こします。重症化し、死亡することもあります。

日本紅斑熱

ダニに刺されてから2～8日後に、高熱、発疹、刺し口 (ダニに刺された部分) が赤く腫れ、中心部がかさぶたになるのが特徴的な症状です。紅斑は高熱とともに四肢や体幹部に広がっていきます。紅斑は痒くなったり、痛くなったりすることはありません。治療が遅れれば、重症化や死亡する場合もあります。

ライム病

ダニに刺されてから、1～3週後に刺された部分を中心に特徴的な遊走性の紅斑がみられます。また、筋肉痛、関節痛、頭痛、発熱、悪寒、倦怠感などのインフルエンザ様症状を伴うことがあります。症状が進むと病原体が全身に広がり、皮膚症状、神経症状、心疾患、眼症状、関節炎、筋肉炎など多様な症状がみられます。

マダニ媒介性の回帰熱

ダニに刺されてから、12～16 日程度 (平均 15 日) に発熱、頭痛、悪寒、筋肉痛、関節痛、全身の倦怠感などの風邪のような症状が見られ、時に、神経症状 (意識障害、けいれん、昏睡)、リンパ節腫脹、呼吸不全、出血症状 (歯肉出血、紫斑、下血) が現れます。

いずれの疾患も、症状には個人差があり、ダニに刺されたことに気がついていなかったり、刺し口が見つからなかったりする場合も多くあります。

見た目だけの判断は困難です。治療が遅れれば重症化や死亡する場合もありますので、早めに医療機関に相談しましょう。

重篤事故
死亡又は6ヶ月以上の入院

4件(死亡3件)

1ヶ月～6ヶ月未満の
入院及び後遺障害の事故

24件

① 重 篤 事 故

令和5・6年度の重篤事故は、36件です。令和7年度1月報告分までで33件です。㊤

1月は4件の重篤事故報告があり、死亡事故は3件です。

内訳は、就業中の事故が3件、就業途上の事故が1件となっています。

1月までの累計は33件となり、前年度同月より3件の増加、就業中・就業途上別では就業中の事故が6件の増加、就業途上の事故が3件の減少となっています。

<死亡事故>：3件

<6ヶ月(180日)以上の入院事故>：1件

【就業中の事故】：3件

剪定作業中の事故：2件 「墜落・転落」による事故(No.30, 33)

※No.33 令和7年度8月に「1ヶ月～6ヶ月未満の入院事故及び後遺障害」の事故で報告済みの事故が、入院6ヶ月以上となったもの。

除草作業の事故：1件 「蜂・犬・蛇等刺され・噛まれ」による事故(No.32)

【就業途上の事故】：1件

歩行中の事故：1件 「転倒」による事故(No.31)

【安全上の課題と今後の対応】

《植木の剪定作業について》<墜落・転落>

必ず保護帽(ヘルメット)を着用しあご紐を確実に締めてください。脚立や梯子を使用する前に、まずは使用自体を避けられないか検討してください。一人作業は、重篤化のリスクが高まります。複数名での作業体制を徹底してください。複数で作業する場合も単独にならないよう、互いに視認できる位置を確保して作業してください。

《除草作業について》<蜂・犬・蛇等刺され・噛まれ>

肌の露出を極力避け、裾・袖口・襟元からの虫の侵入を防ぐため、裾仕舞いを徹底してください。枝葉の繁茂した場所で作業を行う場合は、作業前などに虫よけスプレー(忌避剤)を作業着等に散布し、マダニ等の接近を防ぐよう努めてください。作業就業後は、作業着等への付着や皮膚への刺咬の有無を確認する習慣を定着させ早期発見に努めてください。(重症熱症血小板減少症候群(SFTS)はマダニにかまれるほか、感染した人や動物の血液などを介してもうつります。6日～2週間の潜伏期間後、嘔吐や発熱、下痢などの症状が出ます。)

1月報告分までの累計

※()は当月報告分

	令和7年度累計					前年度(令和6年)同月 累計				
	件数	事故の程度		性別		件数	事故の程度		性別	
		死亡	入院	男性	女性		死亡	入院	男性	女性
就業中	26(3)	16(2)	10(1)	24(3)	2(0)	20	15	5	18	2
就業途上	7(1)	3(1)	4(0)	4(1)	3(0)	10	8	2	7	3
計	33(4)	19(3)	14(1)	28(4)	5(0)	30	23	7	25	5

1 月報告分内容

No.	性別等	区分等	事故の状況	保護帽	安全帯	交通手段
30	男性 75 歳	就業中 (死亡)	剪定作業を行っていた会員が倒れているのを依頼者が発見。救急車で搬送されたが1時間後に亡くなられた。警察署の現場検証及び検視の結果から、目撃者はいないが約2.5mの樹木の近くに8尺の三脚が設置しており、下がコンクリートだったため、転落または転倒の可能性がある。身体の右側を強打したものと推測される。	×	×	—
31	男性 78 歳	途上 (死亡)	就業を終え帰宅中、歩道を歩いていた際に躓きそのまま後ろに転倒し、後頭部を強打した。通行人により救急搬送された。その後、一時期は意識が戻り治療をしていたが容態が急変し亡くなられた。	—	—	徒歩
32	男性 71 歳	就業中 (死亡)	午前8時から午後5時まで林道の除草作業を10人で行い、以降は現場作業に本人は就業していない。就業日より1週間後、発熱を訴え病院を受診、胸部に咬傷が認められ、マダニ感染症の疑いあることから救急搬送され入院。重症熱症血小板減少症候群（SFTS）と診断されICUにて治療を継続するもその後亡くなられた。	○	—	—
33	男性 81 歳	就業中 (入院)	庭木剪定作業のため、現場の準備をしていたところ転んで側溝に落ち、首を骨折した。	×	×	—

2 1ヶ月～6ヶ月未満の入院及び後遺傷害

1 月は **24 件** の事故報告がありました。

内訳は、就業中の事故が16件、就業途上の事故が8件となっています。

事故件数は24件で前年度同月と比べると4件の減少、就業中・就業途上別にみると、就業中の事故が4件の減少、就業途上の事故が同数となっています。また、男女別では、男性は19件で1件の増加、女性は5件で5件の減少となっています。4月からの累計は183件で、前年度同月より **49 件の減少** となっています。

【就業中の事故】：16 件

植木の剪定作業中の事故：8件 「墜落・転落」6件（No.162・165・174）「転倒」2件（No.167・182）

除草作業中の事故：3件 「転倒」1件／「墜落・転落」1件／「切れこすれ」1件（No.179）

清掃作業中の事故：1件 「転倒」1件

その他の事故：4件 「転倒」4件（No.170）

【就業途上の事故】：8 件

自転車の事故：5件 「転倒」4件（No.163・171）／「交通事故（道路）」1件

徒歩の事故：3件 「転倒」2件（No.180）／交通事故（道路）1件

【安全上の課題と今後の対応】

《剪定作業中の「墜落・転落」による事故》

6件の事故のうち4件は保護帽を着用していたため、頭部への損傷を免れることができました。転落や転倒によって頭部を打つと、重篤な傷害につながるだけでなく、最悪の場合は命を落とすことになります。会員さんの高齢化が進む中、特に剪定作業はリスクの高い作業です。転落・転倒の危険性を常に意識し、作業内容にかかわらず就業中は必ず保護帽を着用してください。また、 possible の限り脚立や梯子の使用は避け、地上での作業へ切り替えるようにしてください。

《「転倒」による事故》

24件中14件が転倒事故です。多くは作業中にバランスを崩したり、もつれたことが原因です。高齢の方にとって転倒は、骨折につながりやすく、場合によっては寝たきりの状態となる危険もあります。また、長期入院により筋力や体力が低下してしまうことも少なくありません。加齢とともに筋力やバランス感覚、反射的な動作が衰えることで、思ったように体が動かず転倒を招くこともあります。作業中や移動の際も、無理な動きや急な動作は控え、足元や周囲の環境に十分注意してください。

令和 7 年度 1 月分の発生件数

() は令和 6 年度 同月の発生件数

仕事の内容			事故数(件)		男性(件)		女性(件)		平均年齢(歳)	
			1 月	累計	1 月	累計	1 月	累計	1 月	累計
就業中	植木・樹木の剪定等		8(7)	43(62)	8(7)	41(60)	0(0)	2(2)	76	76
	除草作業		3(2)	17(32)	1(2)	12(29)	2(0)	5(3)	75	77
	屋内・屋外清掃作業		1(7)	27(36)	0(3)	10(14)	1(4)	17(22)	71	77
	その他		4(4)	44(36)	4(3)	30(32)	0(1)	14(4)	79	78
	計		16(20)	131(166)	13(15)	93(135)	3(5)	38(31)	76	77
就業途上	交通手段	徒歩	3(4)	15(20)	1(1)	6(10)	2(3)	9(10)	71	76
		自転車	5(4)	32(37)	5(2)	19(24)	0(2)	13(13)	79	78
		バイク	0(0)	2(8)	0(0)	1(5)	0(0)	1(3)	—	83
		自動車	0(0)	3(1)	0(0)	2(1)	0(0)	1(0)	—	83
		計	8(8)	52(66)	6(3)	28(40)	2(5)	24(26)	76	78
合 計			24 (28)	183 (232)	19 (18)	121 (175)	5 (10)	62 (57)	76	77

1 月に報告のあった主な事故の内容

No.	分類	年齢	性別	事故の状況
162	剪定作業／墜落・転落	76 歳	男性	民家の庭木の剪定中、三脚から木に移って剪定バサミで作業していた際に足下の枝が折れ、高さ 2m 弱のところから地面に落下。 安全帽○安全帯×
163	自転車／転倒	81 歳	男性	帰宅するために自転車に乗ろうとしたところ足がもつれて転倒した。その際に右足を強打して動けなくなった。 ヘルメット不使用。
165	剪定作業／墜落・転落	77 歳	男性	10 尺の三脚脚立に上り剪定作業中、バランスを崩し三脚脚立ごと転倒。三脚を立てる際、右側の地面が盛り上がっていたにも関わらず、左脚への敷板による水平調整を行わずそのまま設置していた。また、三脚脚立の先端固定措置も講じていなかったことから、転倒に至ったものである。 安全帽○安全帯×
167	剪定作業／転倒	76 歳	男性	剪定後の枝葉を処分場に搬入した際、枝葉を置くため既に搬入されている枝葉を足で払い、場所を確保しようとし滑り転倒。 安全帽○
170	その他作業／転倒	85 歳	男性	市報配付中、配布荷物を載せた自転車のバランスが崩れ転倒した。 安全帽×
171	自転車／転倒	71 歳	男性	傘を差しながら自転車に乗り、就業現場へ向かっている途中で歩行者を避けようとした際にバランスを崩して転倒し、右尾てい骨を骨折した。
174	剪定作業／墜落・転落	68 歳	男性	松の木の剪定中、三脚梯子が倒れ、2m 程の高さからアスファルトの地面に落下して、左脚の踵を骨折した。 安全帽○ 安全帯×
179	除草作業／きれこすれ	76	男性	川沿いの草刈作業中、自分の作業場所から別の場所に移動したときに斜面から滑り落ち、下で作業していた会員の草刈機に接触し、右足脛骨を損傷した。 安全帽○
180	徒歩／転倒	74 歳	男性	就業後、帰宅しようとしたところ敷地内の傾斜地で足を滑らせ転倒し、左大腿骨転子部を骨折した。
182	剪定作業／転倒	72 歳	男性	公園内の垣根剪定中、夜霧での下草に足を滑らせ土手を滑落し、左足を路上アスファルトに強打し左膝を骨折した。 安全帽○

③ シルバー派遣事業における労働災害報告の事故(休業1ヶ月以上)

11月は仕事の分類別では、「その他の運搬・清掃・包装等の職業」が4件、「施設・ビル等の管理の職業」が2件「教育の職業」「清掃の職業」が各1件発生し、合計8件で、前年度同月より6件の減少となっています。

また男女別では、男性は5件で2件の減少、女性は3件で4件の減少となっています。

4月からの累計は、111件で前年度同月より13件の増加となっています。

なお、11月に死亡事故はありませんでした。

令和7年度11月分 ()は令和6年度同月の発生件数

	仕事の分類(中分類)	中分類 コード	事故数(件)		男性(件)		女性(件)		平均年齢(歳)	
			11月	累計	11月	累計	11月	累計	11月	累計
業 務 災 害	製造技術者	8	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	—	71
	建築・土木・測量技術者	9	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	—	69
	保健師、助産師、看護師	13	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	—	—
	社会福祉の専門的職業	16	0 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	1 (1)	—	68
	教育の職業	19	1 (1)	4 (2)	1 (0)	2 (0)	0 (1)	2 (2)	80	75
	その他の専門的職業	24	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	—	—
	一般事務の職業	25	0 (0)	3 (3)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	1 (3)	—	79
	出荷・受付係事務員	27	0 (0)	2 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	—	74
	商品販売の職業	32	0 (1)	3 (5)	0 (0)	1 (2)	0 (1)	2 (3)	—	75
	販売類似の職業	33	0 (1)	3 (1)	0 (1)	2 (1)	0 (0)	1 (0)	—	76
	家庭生活支援サービスの職業	35	0 (0)	7 (5)	0 (0)	3 (1)	0 (0)	4 (4)	—	73
	介護サービスの職業	36	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	—	78
	生活衛生サービスの職業	38	0 (1)	1 (2)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	1 (1)	—	77
	飲食物調理の職業	39	0 (1)	5 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	5 (3)	—	71
	接客・給士の職業	40	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	—	—
	施設・ビル等の管理の職業	41	2 (1)	7 (7)	2 (1)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	71	72
	その他のサービスの職業	42	0 (0)	3 (2)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (2)	—	76
	農業の職業	46	0 (0)	4 (3)	0 (0)	4 (2)	0 (0)	0 (1)	—	76
	林業の職業	47	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	—	76
	製品製造・加工処理の職業	54	0 (0)	7 (5)	0 (0)	4 (2)	0 (0)	3 (3)	—	75
	自動車運転の職業	66	0 (2)	1 (3)	0 (1)	1 (2)	0 (1)	0 (1)	—	72
	運搬の職業	75	0 (0)	1 (2)	0 (0)	1 (2)	0 (0)	0 (0)	—	69
	清掃の職業	76	1 (2)	14 (14)	1 (1)	6 (8)	0 (1)	8 (6)	76	77
	包装の職業	77	0 (0)	1 (2)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (1)	—	73
	その他の運搬・清掃・包装等の職業	78	4 (3)	40 (35)	1 (2)	21 (23)	3 (1)	19 (12)	76	76
	計	—	8 (14)	111 (98)	5 (7)	60 (51)	3 (7)	51 (47)	74	74

「派遣労働会員の業務災害(休業日数4日以上又は死亡)」、「派遣労働会員の通勤災害(休業日数4日以上又は死亡)」については、「全シ協会員専用ページ」の「シルバー派遣事業における労働災害報告」により、各月翌月最終稼働日までにご入力ください。また、労働災害(業務・通勤ともに)が発生しなかった場合も「労働災害未発生報告」を選択のうえ、各項目をご入力ください。

(令和6年4月19日付 6全シ協発第11号により通知済)



～ 宮崎県における安全就業の取組 ～

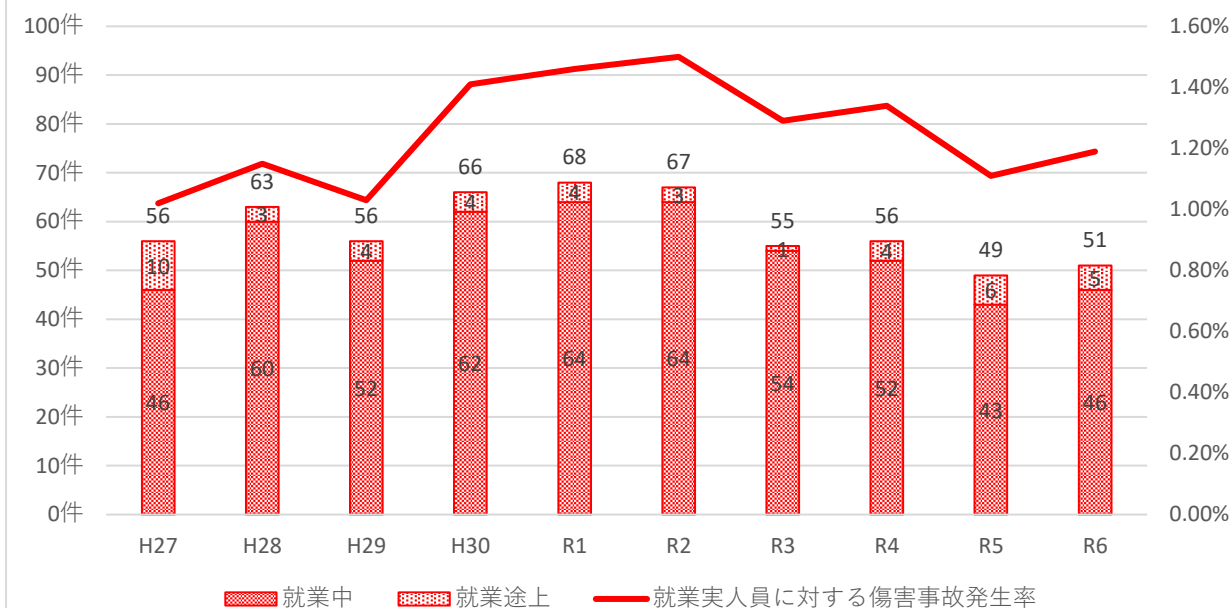
1. (公社) 宮崎県シルバー人材センター連合会の概要 (令和7年3月末時点)

●国庫補助対象センター	13 拠点
●小規模センター	7 拠点
●会員数	4,917 名 (男性 3,127 名 女性 1,790 名)
●派遣登録会員数	1,155 名 (男性 784 名 女性 371 名)
●粗入会率	1.2%
●事業実績 (令和 6 年度)	
◇契約件数	請負 29,278 件 派遣 321 件
◇就業延べ人員	請負 379,489 人日 派遣 58,650 人日

2. 事故発生状況 (年度統計データ)

項目	傷害事故件数 (件)			就業実人員 (人)	就業実人員に対する 傷害事故発生率
	就業中 (内、死亡事故)	就業途上 (内、死亡事故)	合計		
平成 27 年度	46	10	56	5,476	1.02%
平成 28 年度	60	3	63	5,495	1.15%
平成 29 年度	52	4	56	5,447	1.03%
平成 30 年度	62(1)	4(1)	66(2)	4,692	1.41%
令和元年度	64	4	68	4,648	1.46%
令和 2 年度	64	3	67	4,453	1.50%
令和 3 年度	54	1	55	4,279	1.29%
令和 4 年度	52	4	56	4,172	1.34%
令和 5 年度	43	6	49	4,404	1.11%
令和 6 年度	46	5(1)	51(1)	4,273	1.19%

傷害事故件数および発生率の推移



3. 主な安全就業の取組

安全・適正就業推進委員会において、5つの基本項目からなる安全・適正就業推進計画に基づき、以下に掲げる事業の実施予定及び実績について審議している。

(1) 安全就業パトロール

安全・適正就業強化月間に合わせ、毎年7月と10月に県内6～7箇所のシルバー人材センターを対象に、安全パトロールを実施している。

その際、センター間の人的交流や安全に関する情報共有等を目的として、パトロール対象センター以外の職員が同行する取組を行っている。あらかじめ同行希望者を各センターから募り、オブザーバー的な立場でパトロールに参加してもらう。パトロール終了後には、その日のパトロール内容についての問題点や改善点を話し合うほか、自センターとの取組の違いや、安全就業推進についての困りごとなどを率直に話し合う時間を設け、センター職員間のネットワーク強化にもつながっている。



安全パトロール



安全パトロール後の話し合い

(2) 安全適正就業研修会

令和7年度は7月24日に安全適正就業研修会を開催し、県内各センターの安全委員や安全担当理事など57名の参加があった。

第1部では大塚製薬株式会社様より講師を迎え、熱中症対策について講話をしていただいた。

第2部では宮崎北消防署のご協力のもと、「現場でできる救急救命等について」をテーマに、救命処置（CPR：心肺蘇生法、AED：自動体外式除細動器）の実技講習を行った。



安全適正就業研修会



救命措置 実技講習

（3）安全標語

連合会では、安全就業に対する意識の向上を図るため、毎年県内センターの会員および役職員から安全標語を募集している。応募作品を連合会理事・監事で構成する安全標語委員会で審査し、入賞作品を表彰するとともに、連合会が作成するカレンダーに掲載するなど、安全啓発ツールとして活用している。

【令和7年度 宮崎県シルバー人材センター連合会 安全標語】

<最優秀(会員)> 安全はあなたの注意で守られる 安全はあなたが作る道しるべ

<最優秀(役職員)> 目で確認 頭で考え 危険予知 気を引き締めて 安全作業

（4）連合会独自の事故調査

平成26年度より、シルバー保険適用の有無にかかわらず、当該月内に各センターが把握した傷害事故（軽微な怪我なども含む。）を報告してもらい、独自にデータベース化し、理事会や事務局長会議などの資料として活用している。

令和3年度からは、賠償事故について、年度統計よりもっと即時性のあるデータを提供してほしいとの理事会からの要望を受け、賠償事故についても、独自調査を行いデータベース化し、賠償事故の傾向の分析や対策に役立てている。

4 今後の課題

事故件数が減少傾向にあることから、一見して安全就業に対する意識が根付いてきたかのようと思われる。しかし、令和6年度末に就業途上での死亡事故が発生したことや、就業実人員に対する傷害事故発生率が多少の増減はあっても1～1.5%の間で推移しており、決して減少傾向にないことから、就業実人員の減少による事故件数の相対的な減少であり、まだ安全就業への意識が定着したとは言えない状況である。事故を減らすためには、現場で就業している会



員一人ひとりが個々に、そして会員同士が声を掛け合って、危険な環境や行動についての認識を深め、安全就業への取り組みを実践することが重要である。連合会としては、今一度「安全はすべてに優先する」ことを念頭に、各センターと連携して繰り返し情報発信や啓発活動を行いながら、シルバー事業にかかわるすべての会員および職員の安全就業意識の向上に努めたい。

◆◆◆◆◆ 宮崎県シルバー人材センター連合会さんからの報告でした ◆◆◆◆◆
ご報告、誠にありがとうございました。



安全就業に係る 全シ協 販売書籍のご案内

他にも様々な書籍を販売しております。
全シ協 HP、【書籍のご案内】から一覧
をご覧ください。
ぜひ、ご活用ください。



『安全就業のためのチェックポイント』

会員の皆様が安全に就業するための
要点を、全カラー版でまとめたイラスト
小冊子です。

※注：10部以上からお申し込みください。
A4判、32ページ
定価 220 円(税込)、送料実費



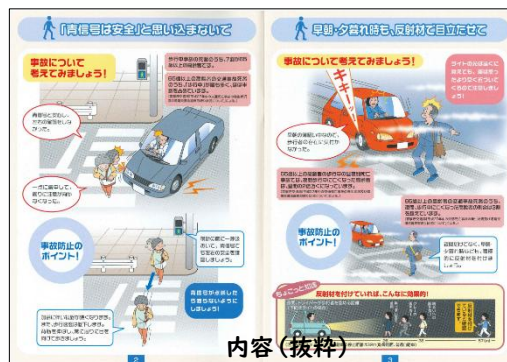
内容(抜粋)



『事故に学ぶ交通安全のポイント』

交通事故の被害者にも加害者にも
ならず、いつまでも健康で”生涯現
役”として活躍していただくため、事
故事例からポイントをまとめた冊子
です。

※注：10部以上からお申し込みくださ
い。A4判、20ページ
定価 220 円(税込)、送料実費



内容(抜粋)



『会員必携 安全就業ハンドブック』

安全就業の心得をはじめ、仕事別の安全対策な
どを分かりやすく解説したポケット版の会員必携ハ
ンドブックです。
会員の皆さまお一人おひとりに、ぜひお持ちいた
だきたい手帳です。

※注：10部以上からお申し込みください。

変形 B7 判(縦 12.5cm×横 7.6cm)/44 ページ
定価 165 円(税込)、送料実費



内容(抜粋)

購入ご希望の連合本部・センターは、
SC 事務局用ページ「書籍の購入申込み」メニューからお申し込みください。

全シ協作成 安全な草刈り作業のための動画のご案内

草刈り作業をされる会員の皆さま

ぜひ、定期的に動画「安全な草刈り作業のために」をご視聴いただき、安全な作業方法の再確認にご活用ください。

飛び石防護ネットは必ず設置し、安全な作業を心がけましょう。

動画はこちらの QR コードからご覧いただけます。

動画 DVD の貸出も行っております。

希望のセンターは、全シ協 研修・支援課までお問合せください



全シ協 HP に移動します

皆様こんにちは。安全就業ニュース編集デスクの永野です。毎号お目通しをいただきありがとうございます。このニュースの発行は、今年度から、全シ協ニューフェイスの倉に編集担当が代替わりし、紙面もリニューアルとなりましたが、新たな誌面はいかがでしょうか。編集デスクとしては、毎号原稿チェックをするたびに「また事故が増えている…」というなかなか事故が減らない現実直面する一方で、各連合会の皆様から取組状況や好事例をご報告いただく安全リレーでは、各地でしっかりと工夫された取組が行われていることに感心しております。しかし、取組は行われていても、どうしても事故は起こります。それは、やはり作業工程の中にちょっとした隙が生まれるのだと思います。事故は絶対防ぐことができるものだと思いますが、それには慢心を捨て、常に基本に忠実に行動することが必要です。先日、安全就業指導員会議の取組事例発表では、山形市 SC さんから「安全就業の ABC」というお話がありました。これは、「当たり前のことを」「馬鹿にしないで」「ちゃんとする」というお話でした。これをやっていないと、きっとどこかに隙が生まれ、事故につながるのではないのでしょうか。事故が起こっていないのはたまたまで、次はだめかもしれません。いかに基本を忘れず、当たり前のことをしっかりやっているかがカギなのではないかと思います。話は変わりますが、全シ協の調査研究事業により、シルバーでの就業が後期高齢期におけるフレイル抑制に一定の効果があることが示唆され、学術誌にも研究成果が掲載されました。「安全」は当たり前として、シルバーで適度な就業をすることにより健康増進にも寄与することが証明され、健康志向の高い高齢者の方がさらにセンターでともに活躍していただけることになるのではと期待しております。安全、健康、フレイル予防、これらはシルバー会員の皆様が長くいきいきと活躍するために欠かせない要素となります。この安全就業ニュースがその一助になれば幸いです。(永野)

「一人は好き。でも、孤独は嫌い。」そんな CM のフレーズが妙に心に引っかかりました。そう言われてみれば自分もまさにそうかもしれない。とても正直で、的を射た言葉だと感じました。「一人でいるのは平気ですか？」と聞かれたら、多くの人がこう答えるのではないのでしょうか。「好きです。むしろ楽です!」と。誰にも気を遣わず、テレビのチャンネル権は永久に自分のもの。昼ごはんはラーメンでもカレーでも自由。ソファでいびきをかきながらうたた寝しても誰にも怒られない。一人の時間は大人のご褒美です。ところが不思議なことに、急に寂しさが押し寄せてくる瞬間があります。家族が旅行で数日留守にし、友人とも予定が合わず、部屋で一人過ごしているとき。一人でご飯を食べているとき。一人で帰り道を歩いているとき。その瞬間、ふと思うのです。「あれ、一人は好きだけど、孤独は嫌いだな」と。一人で食べるご飯は気楽でいいけれど、「おいしいね」と共有できる人がいると、なぜかおいしさは倍になります。一人旅は自由で楽しいけれど、帰ってから話す相手がいると、思い出はきちんと形になります。仕事の場面でも、誰にも本音を話せない、理解されていないと感じた瞬間、人は孤独になります。自由は好きですが、誰ともつながっていない状態は好きではないのです。人は勝手なもので、誰かとずっと一緒にいると一人になりたくなくなり、本当に一人が続くと誰かと話したくなります。そして歳を重ねるほど、この感覚は強くなるのかもしれませんが。バランス調整が繊細になっていくのでしょうか。一人で過ごす時間は大切です。でも、挨拶ひとつ、雑談ひとつ、笑顔ひとつで、心は驚くほど元気になります。孤独とは、一人でいることではなく、「誰ともつながっていない」と感じることなのだと思います。会員さんも職員さんも、一人の時間を楽しみつつ、つながりも大切にしながら、仕事に、遊びに、学びに——これからも一緒に、笑いながらシルバーを盛り上げていきましょう。(高木)